

古賀市議会 2022年第3回定例会（9月）

最終日本会議における討論

2022年9月26日

古賀市議会議員 奴間健司

（2）第54号議案 令和3年度古賀市一般会計決算の認定について

第54号議案 「令和3年度古賀市一般会計決算の認定について」賛成の立場で討論します。

2021年度決算ですが、一般会計の歳入は273億5,975万円、歳出は251億5,467万7,000円、実質収支で21億1,210万4,000円の黒字となっています。

歳出総額はコロナ禍や物価高騰対策の補正予算があったことから、当初予算時と比べて約26億3,100万円増となっています。

経常収支比率は84.3%で前年度から6.5%改善されました。

市債残高は144億2,856万9,000円で北中大規模改造、臨時財政対策債で前年度と比べて約5億4千万円増となっています。

基金残高は69億8,170万7,000円で約14億5,600万円増となっています。

今回は以下の視点をもって審査しました。

まずもって申し上げたいのは、避難所対策で購入したワンタッチパーテーションです。台風14号に備え9月18日の夜は約200人の市民が小学校体育館等に避難しました。

このパーテーションについて避難した方から大変助かった、市に感謝するという声を頂きました。決算審査中に市民の評価を聞いて大変うれしかったです。2年前、約600人が避難したときの市民、職員の体験からこのパーテーション購入につながったと思いますが、とても良い結果をもたらしたことをまずもって評価します。

さて、第1の視点は、財政状況の評価です。

実質収支で21億1,210万4,000円の黒字であり、経常収支比率は84.3%で前年度から6.5%改善されました。かなり良好と言えます。

ただ、その要因である普通交付税の増は2021年度限りの措置であり、構造的に改善が進んだわけではありません。市の認識は、「財政状況は厳しくなりつつある」という認識と「大きな事業に着手する余力がある」という認識も変わっていないとのことでした。10年、20年先をにらんだ財政見通しをしっかりと立てること。特に今後、古賀駅東口、古賀駅西口、薬王寺快生館の取組がさらに進むことからこの点は重要になることは指摘します。

第2の視点は、新型コロナウイルス感染症対策です。ワクチン接種等の直接的経費約5億982万円をはじめ新型コロナ関連事業決算額は約25億5800万円となっています。市民を新型コロナから守るうえで最優先の取組であったと評価します。

第3の視点は、古賀北中学校大規模改造第1期工事事業費約4億2600万円です。長年の願望であったトイレの洋式化が実現しました。今後の学校施設の活用に向けて地域開放室が整備されました。学校施設の有効活用と地域コミュニティの場としての活用に道を開く取り組みとして評価できます。

第4の視点は、第4次総合振興計画の最終年度の決算だということです。第5次総合計画策定、公共施設等総合管理計画第1期アクションプラン策定もありましたが、その前提は第4次総合振興計画の結果の検証です。

この点では、第4次総合振興計画後期基本計画の政策マネジメントシート427ページがようやく提出されました。各施策の現状と課題が踏み込んで記載され、現場職員の問題意識と共有する部分が多々あったことを確認できました。希望を持つことができました。

第5の視点は、地球温暖化防止対策です。議会の提言も契機となり古賀市も2021年度にゼロカーボンシティ宣言をしたことは重要な成果です。昨年为国連CPO26では産業革命前に比べて気温の上昇を1.5℃に抑える努力を行うことを確認しました。

市長質疑で清掃工場の2032年度以降の在り方をめぐる検討が始まり2022年度中に大まかな方向性を決めようとしていることがわかりました。愛知県豊橋市では生ごみ資源化で処理費を3億円削減し売電で3億円、計6億円のお金を生み出しました。「1.5℃の約束」を守るためにはすべての公共施設に太陽光発電を設置するなど、前向きで、前のめりの対策を加速させる必要があることを指摘します。

第6の視点は、健康づくりです。今回の決算審査でも市民の健康課題と健康づくりの取組の検証を追求しました。国保特別会計や介護保険特別会計でも同じ問題意識で臨みました。

答弁だけ聞くと、市民や子どもの健康状態について「良好な状態が維持されている」、「改善方向にある」、「横ばい」との評価が返ってきました。疑問を感じました。

しかし、第4次総合振興計画後期基本計画政策マネジメントシートには、未就学児、小中学生、20代や30代など若い世代に健康課題があること、そして若い世代へのアプローチが必要という問題意識が記載されています。

小中学生や16歳から29歳までの世代への特定健診の実現はけっして無理ではないと受け止めました。

以上は今回の決算審査の基本的視点であり、認定に賛成する理由でもありません。

次に、質疑を通じて明らかになった具体的改善事項を申し上げます。

- ア) 各種審議会等をオンラインで行えるよう条例や規則を改正すること。
- イ) 快生館については持続可能性を確保するために経営主体の構築をめざすこと。
- ウ) コミュニティソーシャルワーカーについてはまず市の幹部職員が大阪府豊中市の視察研修を行うこと。
- エ) コロナ対応で過労死ラインを大きく超える時間外勤務を経験したことから、災害や感染症対応においては、一つの課や係に集中させるやり方を反省し対策室等の設置で対応すること。
- オ) 清掃工場の将来計画については財政負担、環境負荷の徹底した軽減に向けて慎重に検討すること。
- カ) 地球温暖化防止に向けた「1.5℃の約束」を果たすためにあらゆる対策を講じること。
- キ) 公園の在り方について、市民がくつろげる場の提供、緑の確保、co2削減を意識すること。
- ク) 小中学生合わせてピークが2023年度、令和5年度。学校施設を地域コミュニティの拠点、健康づくりの拠点、まちの保健室として活用する積極的検討を進めること。
- ケ) 小中学生、16歳から29歳までの血液検査を含む健診の機会を設けること。
- コ) 図書司書の人材を持続可能な形で確保するとともに、レファレンス機能の周知、利用拡大を図ること。
- サ) 計画の策定、遂行にあたっては市民との対話の徹底お情報公開に努めること。

以上の点をしっかり受け止めることを求めます。また2023年度予算にどう反映されるかしっかりチェックしたいと思います。

以上、賛成討論とします。